

寺社を巡る会

活 動 記 録 書

開 催 日： 令和6年3月7日(木) 天候 晴	開催テーマ： ゆったりと鎌倉・再発見 ～玉縄の室町から江戸時代～
開催場所： 鎌倉市大船	記 入 者： 佐々木 茂夫
参加人数： 会員 30名 準会員 1名 ビジター2名 合計33名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース： 大船駅西口（集合）～玉縄首塚～玉泉寺～龍寶寺～貞宗寺～久成寺（解散）～バス停「久成寺前」～（バス）～大船駅 集合場所は、大船駅西口で、駅の北改札を出てから西口を経て結構歩いたが、33名が無事集まった。代表の挨拶、鎌倉ガイド協会のガイド紹介を終え、快晴のもと、出発。 最初は大船軒の建物。工場兼事務所で喫茶店もあったようであるが、今は閉鎖されている。 次は柏尾川沿いに下流の方へ行くと六体の地蔵と大きな「エノキ」の木がそびえている。ここが古い5輪塔などを祀っている玉縄首塚。大永6(1526)年安房の武将里見実堯が鎌倉に攻め込んできた時、玉縄城主北条氏は家臣らとともに戦い里見の軍勢を追い払った。この戦いで犠牲になった敵味方双方の霊を供養したと言われている。毎年8月19日の夜は「灯籠流し」が盛大に行われている。 山裾に真言宗の玉泉寺があった。本堂の右手に弘法大師の像、左手にはどんな願い事も聞いてくれる「よくばり地蔵」が建っている。ここは玉縄城の家臣だったと言われる小林若狭という人が開いたといわれている。本尊の不動明王は、そのお腹の中に「胎内不動」と呼ばれるもう一つの小さな不動明王が納められている秘仏。正月三が日のみ開帳。拝観してみたい。 次は曹洞宗の龍寶寺。この寺は玉縄三代城主の北条綱成が天文年間に建てた瑞光院に始まる。天正3年(1575)六代城主北条氏勝によって現在地に移された。龍寶寺の名は氏勝の父四代城主北条氏繁の戒名からとられている。玉縄北条氏の菩提寺として栄えたが、小田原北条氏の滅亡とともに衰退した。その後、江戸時代の明和年間に建物が再建された。北条氏勝は、天正18年(1590)秀吉の小田原攻めの際は玉縄城に籠城して死を決意していたが、龍寶寺の住職良達等に説得され無血開城した。本堂には、本尊の宝冠釈迦如来と脇侍の文殊・普賢菩薩が祀られている。本堂の脇には、北条綱成、氏繁、氏勝の北条三代の墓といわれる石塔が並んでいた。 ここで植物に詳しい鎌倉ガイド協会のガイドが龍寶寺の境内で、3組まとめて説明する。その中でメタセコイア（日本名：アケボノスギ）は化石でしか見つかっていなかったが、戦後、中国で米軍が発見して、米軍が広めたという話を聞いて驚いた。そう言う逸話があったのだ。 住職が亡くなられたので、貞宗寺の参拝は中止した。遠くから門前をながめただけだが、弔問の人が集まってきていた。貞宗寺の名は、徳川二代将軍徳川秀忠を生んだ家康の側室お愛の方の生母貞宗院による。江戸城大奥で御年寄役を勤め、晩年この地に住み隠居した。徳川ゆかりの寺らしく三葉葵の紋の入った膳などがあるそうだ。訪れてみたい寺だったので、残念だった。 久成寺は、小田原北条氏の家臣で日蓮宗を篤く信仰していた梅田秀長が自らの邸を寄進して創建した。徳川幕府と関係が深く寺領三石を寄進した。家康は、鷹狩の際にもこの寺によく寄ったという。境内には長尾定景の墓といわれる室町時代の石塔がある。長尾定景は、石橋山の戦いで頼朝と戦ったが、その後降伏して岡崎義実に預けられ、源実朝を暗殺した公暁を討ち取った。 久成寺で解散。バスで大船駅に戻った。	
参加者の状況・意見など： 皆さん元気に歩き通したが、実は頑張って歩いていらっしゃる方も多いことに気が付き、ちょっと感動した。終了後の反省会も楽しんでいる方も多く、今回も盛り上がった。久しぶりに参加した準会員の方ともお話が出来たことも良かった。	
次回の予定： 令和6年4月4日(木) 10時 京急泉水橋バス停 テーマ「足利一族ゆかりの地を歩く」	